平成 21 年度『いわての川づくり研究会』を開催しました！

河　川　課

県では、平成 21 年8月 20 日、21 日の2日間、『いわての川づくり研究会』を開催しました。

研究会では、国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 流域管理研究官 藤田光一氏をお迎えし、八幡平市の矢神川における現場講習会、川づくりに関するご講演をいただきました。また、そのほかにも県内の多自然川づくり事例発表や、平成 21 年河川功労賞を受賞された『長内川川の会』の活動状況報告、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の『北上川自然再生事業』の事例紹介などを行いました。本研究会を通じて、多自然川づくりがより一層推進されることが期待されます。

◆ 現場講習会（一級河川米代川水系矢神川）

講師／国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部/流域管理研究官　藤田光一　氏

現場講習会は、平成 19 年災一級河川矢神川河川等災害関連事業（八幡平市）の現場で実施しました。本事業は、「多自然川づくりアドバイザー制度」を活用して藤田研究官からアドバイスを頂き、河道計画を立案したもので、今回の現場講習会では、完成後の矢神川について評価いただくとともに、多自然川づくりについてご指導を頂きました。

一級河川矢神川（八幡平市）

現場講習会の状況（中央が藤田研究官）

＜現場講習会における藤田研究官からのアドバイスの内容＞

- 多自然川づくりの一つの目標は、工事した川に見えないこと。
- 川に癖付けするときは、平面形も見ながら、川の動きを読んで大胆に！
- 護岸の直線部のところにランダムに石を寄せることは大事。
- 自然河川には一様な勾配の法面はない。
- 内岸の護岸が必要ない箇所は、土羽でよい。
- 護岸の材質・構造・明度・天端や水際の処理を良く考える。安易に緑化ブロックとしない。
- 護岸天端の覆土は、よりラインを目立たせないように、ふんわりと！
- 覆土する土は、現地の表土を使用する。
- 河床材の動き方、覆土部の植生回復状況の経過観察。
- 良いところ、課題が残るところから、具体的な情報やノウハウを引き出し、次の現場に活かす！

◆ 第1部　多自然川づくり事例発表会

県内で実施している多自然川づくりの事例発表会を行いました。計画段階の事例、地元協働による事例、多自然アドバイザー制度を活用した事例、完成後のモニタリング事例など、内容は多岐にわたり、各現場の多自然川づくりの参考となる事例が発表されました。優秀賞を受賞した矢神川、盛川の事例は、10 月 26 日～27 日に仙台市で開催される東北ブロック会議で、本県代表として発表する予定となっています。

また、平成 21 年河川功労賞を受賞した長内川川の会からの活動報告として、川まつりの状況、ゴミ拾い、支障木伐採等の官民協働の川づくりについて発表いただきました。

◎発表議題

NO.	論　題　名	発　表　者
1	雪谷川改修事業後の環境調査結果から	二戸地方振興局土木部 主任　對馬 豪敏
2	猿ヶ石川安居台地区河川改修における環境調査と川づくりについて	県南広域振興局花巻総合支局遠野土木センター 技師　舘向 博基
3	矢神川災害関連事業 ～多自然川づくりの取り組み～	盛岡地方振興局土木部岩手出張所 主査　吉田 健一
4	二級河川盛川における漁協と協同した川づくりについて	大船渡地方振興局土木部 技師　鈴木 英彰
活動報告	【川と地域の関わり】 長内川に親しもう	長内川川の会 事務局長　上山昭彦　氏

◆ 第2部　川づくり講演会

【川づくり事例紹介】　～北上川自然再生事業～
東北地方整備局岩手河川国道事務所工務第一課　計画係長　大菅貴広　氏

和賀川合流点部で実施される北上川自然再生事業の事例紹介。和賀川合流点部では、河道変遷に伴い、陸地化、樹木化が進行した影響で、外来種のハリエンジュの繁茂、生息範囲が拡大していましたが、本事業で礫川原を再生しようとするもので、県内の河川においても大変参考となりました。

【川づくり講演会】
演　題：中小河川の川づくり技術の最近の動向
～現況の川を丁寧に広げることから考える川づくりの意義と課題～
講　師：国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部流域管理研究官　藤田光一　氏

～プロフィール～
・1958 年東京生まれ
・多自然川づくり研究会メンバー
・1983 年旧建設省土木研究所入省。国土技術政策総合研究所河川環境室長、環境研究官を経て、現在、流域管理研究官を務めている。

講演会では、県、市町村、設計コンサルタント、建設業者等 100 人以上の参加をいただきました。講演会終了後のアンケートでは、多自然川づくりについて理解が深まったなどの意見が寄せられ、大変好評でした。

講演会より
- **「何が大事か？何を守りたいのか？何を残したいのか？」**
- **「最善、次善、次々善、次々々善・・・・・・」と丁寧におりていくこと**
- **標準断面の呪縛。標準断面は必要河積拡大量。そのとおりにするものではない。標準断面に使われない。使いこなす。**
- **現有環境資源を活かした空間デザインができるかどうか。**
- **やはり、川にはスペースを！**
- **植生などを管理する労力の増大をどう考えるか。**
- **インパクトーレスポンスの読み込みは河川技術者の生命線。**
- **治水技術としての合理性の追求が多自然川づくりにつながることが結構ある。**
- **地域にとって大事な川になっていくかどうか？**